

いのち・とき・なかま

豊中五中
学校だより
H29(2017)年
3.24 発行

第63回卒業式 3年生が旅立ちました！

多くの来賓・保護者の方が見守る中、3月14日、第63回の卒業式がありました。

会場づくりをしてくれた1年生、在校生として参加した2年生も協力して、素晴らしい卒業式を作ってくれました。一人一人に卒業証書を手渡し、お祝いの式辞を述べました。卒業生からは、中学校生活を振り返り、友だちや先生、家族への感謝の言葉が語られ、最後には「歌う会」で見せてくれた美しい歌声が、会場全体に響き渡りました。卒業生の歌は本当に上手で、来賓の方からもお褒めの言葉をたくさんいただきました。式辞、在校生の送る言葉、卒業の言葉の一部を紹介します。



学校長式辞 『今、世界や社会の風潮として、自分や自分の周りさえよければ、他は知らない、排除しようとするようなできごとや、意見の対立・分断が伝えられています。そんな時代だからこそ、五中の3年間で経験した、隣の人の事を考え、互いにありがとうと言い合える関係は、本当に大切に貴重なものだと思います。この経験はきっと、卒業してからも、社会に出てみんなの自信と支えになることと確信しています。これから新しく出会う人のこと、隣の人のことを知ろうとする姿勢を大切にしてください。何が大事なことか、そのとき、何をすべきか、よく考えて行動して下さい。』

在校生の送る言葉 『僕たちが入学したとき、中学校の「先輩方」というものは少し近づきたいという印象をもっていました。しかし、クラブ活動や委員会活動などを通じて、63期生の皆さんはとても優しいという印象に変わりました。だから、僕たちは安心してクラブ活動にも参加できるようになりました。また、全校集会などのとき、どの学年よりも1番早く静かに集中されていました。63期生の皆さんは、とても自覚があるように見えました。僕たち64期生は、先輩方に比べて、まだまだ静かになるのに時間がかかります。だから、先輩たちのように最上級生としての自覚をもち、人の話を静かに集中して聞けるようにします。』

卒業生の言葉 『63期生が1番頑張ったことは、一人一人が周りのことを考えるということです。例えば、「一年生の時から学校に来にくい人がどうしたら学校に来るか」ということを考え、一人1人が声かけをしました。個人の問題としてではなく、学年・クラスで考え、意見を出し合い、まとめました。また、三年生の人権フェスタ「ひまわり」では、今体育館に掲示してある「折り鶴壁画」を作製しました。この作品の真ん中にある文字は、「残りの中学校生活を一日一日大切にし、笑って過ごせるようにしよう！」という意味を込めて「一日一笑」という言葉にしました。全員の折り鶴を使って、きれいに仕上げることができたので、完成した作品を見たときには感動しました。こういった努力を通して、人の気持ちを考え、仲間に思いやりの心を持てる学年になりました。

64期生のみなさん、本当にありがとうございました。64期生のみなさんにとってお手本になれるような良い先輩ではなかったかもしれませんが、でも最後にみなさんに伝えたいことがあります。それは「何事にも真剣に取り組むこと」そして、「周りのことを考える」ということです。私たちの学年は新しいことにチャレンジしてきました。64期生のみなさんは五中の代表になる番です。最高学年としての自覚を持ち、この1年間わき道にそれないように1人1人自分の道を歩んでいってください。そして、一日一日の授業を大切に、この五中をもっと良い学校にしていってほしいです。私たちが受け継いできた夢バトンをしっかり受け取って、次の代へつないでください。』



今日は修了式 ～まとめと次のステップへ～

時の流れは早く、今日は今年度の修了式です。1年前、様々な思いと決意をもって入学・進級をした皆さん。まずは大きな災害や事件・事故なく、無事過ごせたことはよかったです。1年前に考えた「目標や抱負」はどのくらい実現できたでしょうか？この1年間、楽しかったこと、頑張ったこと、つまづいたこと、つらかったこと等、いろんなことがあったと思います。多くの行事、取り組みがありました。

- ・1年：校区ミニフィールドワーク&レク大会、秋の校外学習
- ・2年：湖畔学舎、職場体験学習、四中夜間学級との交流、修学旅行の準備
- ・様々なテーマでの聞き取り学習（男女共生、ケータイスマホ、いじめ、タバコや薬物等）
- ・全学年：体育大会、人権フェスタひまわり、ありがとうを歌う会

これらを通して知らなかった人と知り合い、考え、行動し、仲間の絆を育ててきました。教科の学習でも、たくさんの中身を学んできました。学習内容はだんだん難しくなってきましたね。またクラブ活動では、練習や試合、演奏会を通じてたくましくなり、自信をつけてきましたね。どの人も、1年間の経験でずいぶん成長し、表情が変わってきたと思います。

一方で、気になることもありました。生活の色々な場面で落ち着かないことも多くありました。人間関係のトラブルがあったり、注意されても素直になれず、言い訳やトゲのある乱暴な言葉が飛び交うこともありました。集団になると私語がなかなか減らないことも課題です。63期生が卒業し、次は64期65期の皆さんがこの五中を引っ張っていくことになります。卒業生の思いを受け継ぐとともに、自分自身の気持ちを整理していきましょう。今は「節目」

のとき。植物の竹は「節」があることで強く、しなやかになると聞いたことがあります。この時期にしっかり振り返りと次のステップへの決意を固めておいてくださいね。

1年(65期生)

3月16日には、体育委員会が企画してスポーツ大会を実施しました。23日の学年集会では、ゲームで身体を動かした後、議員会から今年の振り返りがありました。先生



からは、個人で自由勝手に行動するのではなく、集団生活であることの意味を良く考えること。みんなでひとつの事をやりきることで、達成感を味わって欲しいこと等の話がありました。集会後は、教室で大掃除。一生懸命床磨きをしました。



2年(64期生)

23日、学年集会・球技大会をもちました。議員や役員からは、みんなの書いたアンケート等を元に、時間をかけて話し合ったことを順に呼びかけました。

- ・どんな授業が良いか、についての意見
- ・集まったとき、人の話をしっかり静かに聞く
- ・授業を大切にす 自分勝手な行動をしない
- ・メリハリをつけること
- ・最高学年になる自覚を持つこと等。

「学年をより良くしていこう」という気持ちを持った「仲間の輪」を広げていきましょう。球技大会では男女ともグラウンドで楽しくプレイし、笑顔がたくさんありました。



前期生徒会役員決定

3月17日、来年度の前期生徒会役員の立会演説会並びに選挙が行われました。立候補演説では、「前期の経験を生かして、より楽しめるようにしていきたい。みんなが参加できるイベントをしたい。行事のたびに全員の絆が深まったので、行事を活性化したい。学校をよくするためのアイデアを実行したい。」等、積極的で頼もしい言葉がたくさんありました。また応援演説もしっかり候補者の事を理解して話していました。

学校生活を作っていくのは自分たち=生徒会です。役員だけではなく、一人一人が「自分でできること」からやっていくことを期待したいと思います。過去の卒業生が残してくれた言葉や経験、アイデアをいくつか紹介するとともに、

- ① テラスの使い方、校舎の使い方のルールをしっかり考えること
- ② 生徒会役員会、議員会、班長会、各委員会、HRなど様々な活動を相互につなげること

の2点を課題として話しました。

当日は小学校の卒業式の日でした。もうすぐ「新入生＝66期生」として入ってきます。演説会の最中、私語で集中力にかける場面がありましたが、これからの中学校生活は、自分たちが作っていく番だという自覚をしっかり作りたいものです。

会 長 小泉奈津海 (2-2)	副会長 林 歩乃歌 (2-1)
書 記 長田天音 (1-1)	会 計 表西真優 (1-2)

役員に決まった人は、いろいろな「思い」を、ぜひ「形」にしていきたいと思います。

保護者の皆様、1年間ありがとうございました。

皆さまのご理解とご協力のもと、平成28(2016)年度を終えることができました。学校運営につきまして、何かと至らぬところもあったかと存じますが、今後とも子どもたちのために、全教職員が精一杯努力していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。